

【武蔵野市】

■実施日時：令和 6 年 12 月 3 日 14:00～16:00

■参加部署：生活福祉課生活相談係福祉総合相談窓口
多摩府中保健所

■実施内容：取組状況の共有・情報交換

○ひきこもり支援の中心部門

- ・生活福祉課生活相談係福祉総合相談窓口が中心となっている。
- ⇒福祉総合相談窓口は令和 3 年 4 月に開設。現在は 3 名体制。

○武蔵野市の動き

- ・総合支援調整会議を 2 カ月に 1 回開催。
- ⇒庁内・庁外で相談を受けている関係部署の係長級以上が参加する会議。
- ・ひきこもりサポート事業は「文化学習協同ネットワーク」に委託。
- ・「それいゆ」で 15 歳～49 歳までの若者支援を行っている。
- ・福祉総合相談窓口では 50 代・60 代の中高年層のひきこもり相談を中心に受けている。
- ・広域連携事業として、令和 4 年度より「ひきこもり UX 女子会」を他自治体と開催。
- ・年 1 回、ひきこもりの講演会を市民向けに実施。
- ・精神保健アウトリーチ支援事業を、福祉総合相談窓口・障害者福祉課・健康課の 3 課共管の事業として開始。訪問看護ステーションに委託をして、精神保健に何らかの課題を抱える方たちの地域での在宅生活を支援している。

○当事者会との連携状況について

- ・広域連携事業として、「ひきこもり UX 女子会」を開催している。

○民間支援団体との連携状況について

- ・「それいゆ」で若者支援を委託している。
- ・若者サポート推進連絡会議を年 2 回実施。児童青少年課や子ども家庭支援センター等で、それぞれの事業の情報提供を行っている。

○民生委員・児童委員との連携状況について

- ・福祉総合相談窓口については民生委員に周知している。（令和 3 年から相談は 0）
- ・地域支援課が民生委員を束ねているため、相談があった際には一度地域支援課が回収し、

その後福祉総合相談窓口に繋ぐ流れが出来ている。

○学校との連携状況について

- ・子ども家庭支援センター、SSW が対応し情報共有して繋いでいる。
- ・中学生は「クレスコーレ」高校生は「みらいる」が連携先になっている。

○重層的支援体制整備事業・地域福祉計画について

- ・地域支援課がメインとなっている。
- ・市内の典型的な作業や短時間勤務の業務を開拓し、就労準備・中間的就労・障害者雇用コーディネート・職場定着支援等を一体的に実施する予定。
- ・令和6年4月から精神保健アウトリーチ支援事業を開始。
- ・複合的な課題、他機関連携が必要な場合は、福祉総合相談窓口が相談を受け取り、調整を図る。
- ・月1回支援調整会議（生活困窮者支援法）を行う。
- ・2カ月に1回、総合支援調整会議を開催。事例検証や情報共有を行う。
- ・年1回程度、重層的支援体制整備調整委員会を開催。

○生活困窮者自立相談支援機関での対応について

- ・就労準備支援・家計改善支援・転宅支援・食糧支援・生活保護に繋ぐ等展開している。

⇒福祉総合相談窓口と連携しているケースもある。

- ・地域包括支援センター・居宅介護支援事業所・住宅対策課・社会福祉協議会・医療機関との連携がある。

○保健所・保健センターでの対応について

- ・保健センターでのひきこもり相談実績は令和3年度に1件のみ。
- ・健康課での「健康なんでも相談」という電話相談を行っている。
- ・多摩府中保健所では複数の保健師が武蔵野市を担当している。

⇒個別相談（電話・面接・訪問）、精神保健事業（精神保健医療相談・専門グループ等）での対応。

⇒対象はひきこもりに限らず精神保健の課題を抱えるご家族・当事者等である。

○児童青少年部門・児童福祉部門での対応について

- ・実際の相談や居場所を行っているのは「みらいる」になる。児童青少年課が委託している。

⇒「みらいる」では、子ども家庭支援センターやSSWと頻繁にやり取りをしている。

○地域包括支援センターでの対応について

- ・市役所に基幹型地域包括支援センターが1カ所ある。
- ・武蔵野市を6つに分け、各エリアに在宅介護地域包括支援センターがある。

⇒統括しているのが基幹型の地域包括支援センターである。

○社会福祉協議会での対応について

- ・社会福祉協議会から情報提供を受け、「それいゆ」と動くケースがあった。適切な窓口に繋いでくれている。

○ひきこもりサポートネットからの情報提供・事例紹介・提案等

- ・民生委員

⇒福祉保健財団が行っている民生委員向けの研修について説明。

⇒ゆるやかな見守りで民生委員に限らず区民の誰でもが気になった事を行政に相談できる窓口がある自治体の取り組みを紹介。

⇒総合支援調整会議の中に民生委員や当事者を呼び、視点を変えることも提案。

- ・地域包括支援

⇒支援調整会議でケースをあげ、統一した見解を武蔵野市でルール化し共有をすることを提案。

⇒係長クラスの方をコアメンバーにして情報交換がしやすいようにしている他自治体の事例をあげる。

- ・その他

⇒サポートネットの多職種専門チームの活用を提案。

⇒支援者交流会への参加をご案内。